

第2回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会 会議録

日 時：令和6年11月15日（金）

午前10時30分～12時

場 所：佐久消防署 3階講堂

出席者

委員（16名）

原 拓男	識見者（アテネオリンピックバスケットボール競技・女子選手団長、元教育長職務代理者）
宮島 卓朗	佐久市立浅間中学校 校長
塚田 直道	佐久市立野沢中学校 校長
北垣内 博	佐久市立中込中学校 校長
芝野 崇	佐久市立東中学校 校長
堀籠 英和	佐久市立臼田中学校 校長
飯島 廣樹	佐久市立望月中学校 校長
伊坂 倉一	（特非）佐久市スポーツ協会 会長
大塚 寛美	佐久市スポーツ推進委員 会長
篠原 一郎	（特非）もちづき総合型クラブ 理事長
荻原 和章	（特非）もちづき総合型クラブ（学校運動部活動指導士）
土屋 岳	岸野スポーツクラブ 会長
原 晓生	佐久平バレーボール協会 総務委員長
平林 照義	佐久バスケットボール協会 副会長
小金澤茂喜	佐久地区剣道連盟 副会長
由井 正史	長野県観光スポーツ部スポーツ振興課 現地駐在スポーツ指導主事

事務局（10名）

吉岡教育長

工藤社会教育部長、佐々木学校教育部長

スポーツ課 木内課長、大島スポーツ推進係長、神津

文化振興課 有賀文化振興係長

学校教育課 小林主幹指導主事

スポーツ協会 吉澤事務局長、井出

1 開 会

2 あいさつ 教育長より

3 協議事項

(1) 第1回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会の経過確認【資料1】

(2) モデルケースの状況について【資料2】

(3) 部活動運営委員会の状況について【資料3】

(4) 人材バンクについて【資料4-1, 2, 3】

(5) 質疑・意見交換

(1) 第1回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会の経過確認

資料1について事務局より説明

(2) モデルケースの状況について

資料2について事務局説明後、小金澤委員より補足説明

- ・ 大まかに、会費、会場、指導者確保が課題になっている。
- ・ 現在は生徒から会費を徴収し、交通費扱いで2,000円を支払っているが、指導者確保の点からも値上げをしたい。また、ホームページの作成等の費用もかかっており、運営費が課題。来年度は赤字の公算が大きい。
- ・ 会場については、施設面、立地の面からも県立武道館が望ましい。学校施設の利用となると教員の負担増加となってしまう。県は部活動地域移行を推進する立場であるので、優先的な予約、減免措置をすべき。市から土地の提供、建設費支出をしていることから、使用料の減免を考えるべきで、市としてもなぜ働きかけをしないのか、との意見が連盟内から上がっている。
- ・ 指導者については、今後確保が難しくなっていくことが懸念される。休日の半日を使ってもらうことになり、その点からも現在の部活動顧問の手当である2,700円くらいまでは謝金を上げていきたい。

【会長】

会費、会場確保について、県としてどのように支援してもらえるのかというのが課題のようだが、県ではどのように考えているか。

【委員】

県関係者であれば減免利用ができるので、県の剣道連盟と合同での活動で減免利用でき

る可能性がある。財政面の支援については、来年度予算として指導者への資格取得に関する補助などを要求している。

【会長】

佐久地区剣道連盟が主催で行うことなので、県の剣道連盟と合同で活動をするというのには疑問がある。

【委員】

佐久地区剣道連盟は長野県剣道連盟佐久支部という位置付けであり、この件については長野県剣道連絡にも依頼をしており、県連盟から県担当へ連絡をしているはず。

【会長】

県の連盟の佐久支部ということなので、その意味では県の責任という面も当然出てくるので、よく検討していただきたい。

【教育長】

大事な件であり、去年一昨年から言われている。県が主導してやっているのになぜ減免が受けられないのかと言われると答えようがない。担当同士の話し合いでは進まないので、知事や担当部署へ文書で要望していくようにしないと決着がつかないと考えている。佐久地区市町村教育委員会連絡会でも提案したが、この問題は佐久市だけのものではない。近隣市町村でも使用者はおり、佐久地区の剣道連盟だけではなく教育委員会として進めている。武道館建設の経緯は議員を含め地元市民もよく知っていて、減免について言われて返答に困ることもある。減免を実現できるように方法を考えていきたいと思っているので、対応をよろしくお願ひしたい。

【会長】

今までの経緯もあり、柔軟な対応は難しいかもしれないが、できない理由ではなく、どうすればできるのかを検討していただきたい。

【委員】

使用料はどのくらいかかっているのか。

【委員】

主道場は3面分で3時間6,800円。剣道場は全面3時間4,500円となっており、空いている方のどちらかを使用する。人数が少なければ剣道場。この中で、来年度からは学校の顧問に対しても支払いが必要になってくるので、赤字になってくることは目に見えている。

【委員】

これは縦割り行政の典型で、県は部活動の地域移行を推進しているが、県所有施設については担当課が所管しており一緒に動いていない。これは様々なところで問題になっているが、地域移行に施設は当然必要なので県には基本的な考え方を直してもらい、我々も協力して強く訴えていかなければ施設のせいで頓挫してしまうことになりかねない。

【会長】

国や県が進めている中で、使用料で問題が出てくるのは矛盾があるのではないか。部活動で市の施設、例えば総合体育館を利用する場合はどうなるのか。

【事務局】

減免で利用料なしとなる。

【委員】

武道館の優先的な予約、年間を通しての安定した予約についてもお願いしたい。通常の予約では年間計画が決まっている状態での予約になるので、なかなか入りにくい。また学校施設の利用では顧問に負担が行ってしまう。

【教育長】

来年2月からは、市内施設で異なっていた予約方法が変更され、オンラインシステムで全て統一される。他の団体からも優先的な予約については希望が出ているので、どこを優先していくのかは難しい問題だが、検討していく。

【事務局】

補足として、社会体育施設については既に予約システムが入っているが、文化施設やスポーツ施設でも、学校開放についてはシステム化されていない。そのような状況をできるだけ統一を図って予約をしていただけるシステム構築を進めているところ。

【委員】

剣道やバレーは市のモデルケースとして行っているが、主催、後援がどこなのか。県でも後援してもらえるのかについて、検討していく必要があるのではないか。

【事務局】

各イベントには主催、後援があり、主管が実際に動くような建付け。地域移行は毎週末大会を開催している訳ではなく、あくまでも主催は各地域クラブになってくる。ただ、先ほどのように市の施設については事務的なことを含めて積極的に調整関わっていく必要がある。

【委員】

市はモデルケースということで行っているが、市が主催ということではないのか。

【事務局】

モデルケースとしてはやっているが、他の競技についてもこれから進めていく中で、全てのものを市主催としていくのは非常に難しいと考えている。

【委員】

市は後援ということでよいのか。

【委員】

今の質問に関連して、地域移行が先進的に行われている千曲市と坂城町では千曲坂城クラブという地域のクラブがまとめて地域移行を進めており、クラブが主催でそれぞれの市町は後援という形でできているはず。佐久市の地域移行でもある程度将来的な形を見据えてやっていかないと、これから様々な企業などが協賛してくれるようになった際に持つていきどころが難しい。資金面を考えても地域や個人の協賛がないと運営は非常に厳しくなるので、この協議会も含めて組織づくりをしていかないといけない。

【教育長】

ご指摘のとおりであるが、佐久市では競技毎の特性を踏まえ、例えば剣道のように連盟・協会がしっかりとしているところや、ゆる部活や新しい競技についてはどうしていくかということがあるので、できるところから承認をして進めて行くことになっている。しかし、地域移行は今後10年、20年と続いていくことなので、今述べたような視点を持つことはとても大事。大きい組織があれば楽であるが、一部以外では作るまでに時間がかかり、なかなか進んでいない市町村も多い。大学が入って伝統的にやっているところもあるが、佐久市では伝統的なものもなく、全ての種目をやるというのはなかなかできない。将来的にはすっきりさせていくためにそのようなことは頭に入れながらやっていく必要はある。

また、主催と後援について、そのような発想はない。もともと国や県が部活動の地域移行の受け皿がないかということで探しており、新しい地域クラブができたとすればそこが主催である。佐久市として地域移行を進めて行くという大きな流れの中では、まずができるところから進めて、実際の形を示してもらうのがモデルケースで、今は佐久地区剣道連盟に全てやっていただいている。モデル事業ではなくモデルケースとしているので曖昧で申し訳ないがご理解いただきたい。

(3) 部活動運営委員会の状況について

資料3について事務局より説明

11/23に女子ソフトテニス部の合同練習が実施されることについて補足説明

【会長】

昨日、ある競技の外部指導者と話をしたが、部活動がなくなると思っていた。ウィークデーは学校でやるということを説明したが、一生懸命やっている指導者でもそのような認識で、我々の周知が徹底されていないことが残念であった。

今説明のあった保護者、顧問、指導者からの意見について、もっともなことばかりで、一つ一つ解決していかなければないと感じた。

【委員】

ソフトテニスの話があったが、一生懸命な先生なので進めてもらっているが、本末転倒。教員の働き方改革や持続可能な部活動の目的の中でどのように地域移行が進んでいくのか分からず、8年度には休日は地域クラブに移行されるので子どもたちがかわいそう、ということでやってもらっているのが現状。教員がやってくれるのでよい、となると真逆の方向になってしまふので、気を付けていただきたい。理由として、部活動運営委員会で保護者や顧問からどうなっているのか質問があったときに、部会が発足しておらず協会・連盟では何も分かっていないということが話題になっている。これで8年度に本当にできるのか、という不安や焦りからこのようになっている。

会長がおっしゃったように、周知やこの場にいないスポーツ、文化部の方たちとのコンタクトを取らないと、競技毎に進めるという佐久方式で行うのであればモデルケースだけが進んで他は進まないという可能性があるので、そこはお願ひしたい。

【委員】

バレーボールについては、現在新人戦の最中であり新人戦が終わった12月に、まだ保護者から集金をしてという段階ではなく、体育館を調整した上で合同練習をするという準備を協会の中で行っている。ただ、1月には新人戦県大会があるため、練習の組合せ等は大会の状況と相談でと考えている。協会内ではそういったことも踏まえて部会には理事長はじめ中学校担当者も交えて会議等行っており、バレーボールについては動いていける準備を進めている。

来年度以降の指導者選定について、それぞれの地区理事が行っているがなかなか進まない。現在部活動の外部指導者として入っている人たちを中心にお願いできればと考えており、望月の男子の指導者には協会に入っていたとするということで動いている。そういう手継ぎのところも来年度に向けて今年度はまず協会主催のモデルケースとして行いながら、地域移行の形に持っていけば現段階では思っている。

【委員】

野沢中学校については、先日実施した剣道の活動に参加し、バレーボールについても今後参加していく方向でいる。剣道の資料（資料2）にもあったが、市内の生徒が集ま

って活動することはとてもいいことだと思っており、色々な先生に剣道を教えてもらいたい、他の生徒と一緒にすることで競技力向上に向けての意欲も高まっていく。

他の競技について、バスケットボールはクラブチームの関係がありその辺りが難しいと顧問から聞いている。陸上では部活動のほか軽井沢でクラブチームを持っている職員がいるので多くの生徒が両方で活動している。クラブの方では平日も活動しており、軽井沢か中学校区内で練習している。できるだけ早く地域移行が進み、佐久市で考えているように子どもたちの様々なニーズに応えられるような体制を作ることが必要。

【事務局】

剣道やバレーはモデルケースとして進めているが、ソフトテニスなど他の競技についても同じような形でやりたいという希望があればぜひお声掛けいただき、スポーツ課と相談しながら部会設置など進めていけたらと思う。

【委員】

以前アンケートを取っていただいたように、教員の働き方の関係が持続可能でない状態になっているのが根本。10/25 開催の東信地区スポーツ指導者連携会議に出席して県にも確認したが、地域移行の趣旨は「児童生徒が生涯を通して、スポーツ・文化活動をすることができる持続可能な仕組みづくり」をしていくことで、一つは教員が困窮している状況があり持続可能でないので、地域にぜひ助けてほしい。もう一つは、子どもたち全てが自分でやりたい活動ができる方法を、地域を広げることで考えて行くということだった。それをやるためにどうしてくか検討が必要、というのが主軸。現状では、アンケートからも8割くらいの先生はもう無理だという状況なので、校長としての立場から言わせていただくと、部活動の意義、大きさは重々承知しているが、地域の方々に助けていただく。持続可能でないのでこの会議を行っており、まずは休日、将来的には平日もやっていかなければという中で、先生方の働き方を助けていただくためにも地域の方に協力していただく。先生の手が離れない状況が続ければその負担は地域連携していく中で増大してしまうということを考えていただきながら、よい方向を出していただければと思う。

（4）人材バンクについて

資料 4-1, 2, 3 について事務局より説明

【会長】

令和7年度からコーディネーターを任用ということだが、このコーディネーターは非常に重要なポイントだと思う。この方によって相当変わってくると思われる所以、ぜひ素晴らしい方に来ていただきたいと思う。

【委員】

前々から疑問に思っていたが、人材バンクへの指導者登録をした際、例えばバレーボールであれば佐久平バレーボール協会がいわゆる運営団体として地域移行の運営をしていくが、登録者の情報はコーディネーターから入ってくるということでよいか。場合によつては協会に入つていただくというアプローチをしなければいけない。人材バンクに登録はしたが協会には入つていただけないと、協会主催の活動では謝礼等が支払いできないということも理解してもらわなければいけない。登録したのになぜ駄目なのか、となつてもいけないので、色々情報はいただけるのか。

【事務局】

登録いただいた指導者リストはホームページ等で情報公開して、了承を得られれば直接やり取りしていただく方法を考えている。そこで合意ができれば指導に当たつていただいたり、協会に入つていただいたらということになる。

【委員】

例えばホームページに掲載されている情報を毎回こちらから確認をしなければいけないのか、このような方が登録しましたと教えてもらえるのか、というのでだいぶ違う。その連絡をコーディネーターの方からいただけるのかについて確認したかった。

【事務局】

競技毎にふさわしい方々のリストというような形で、コーディネーターの方から情報提供することも積極的に行いたい。

【委員】

佐久市には全体の大きな地域移行クラブのようなものもなく、動けるところからやつていくとなっているので、このような問題が起こつてくる。バレーボール協会も剣道連盟も佐久市全体のクラブの中に入つているという形だとそのような手順が非常に少なく済み、そこをコーディネーターが上手くまとめていくと全体が動いていくのではないかと思う。今のやり方だと一つ一つ段階を追つて手順を踏んでいかないといけないので大変。

【委員】

県も市もだが、謝金について具体的な記載がない。今はそう書くしかないのかもしれないが、果たしてこれで集まると思ってらっしゃるのか。真剣に考えないと心配である。

【事務局】

謝金については非常に難しい話である。剣道の話の中でもあったが、会場によっては高額な会場費を請求された、指導者を充実させるため何十人も指導者を用意した、という場合に今のところ補助がないので全て受益者負担となる。そのバランスは難しいところ。ご指摘のように、時間でいくらと決められればよいが、指導体制や参加人数の把握が困難で割り返すことができないことからも、今のところ決められないと思う。

また、確かに金額を上げれば指導者が来てくれる可能性はあるが、例えはお金をつけ込んでプロを雇ってくればよいのでは、となってしまうが、地域移行はそうではないと考えている。地域の力を借りるということで、現在も外部指導者はボランティアでやっている方もいらっしゃる。そのような中で自ら進んで地域スポーツを振興したいという気持ちも非常に重要なことであり、お金で全てを解決するということでは決してないと思うのでバランスをよく考えながら議論をしていくべきだと考えている。

【会長】

私も20年くらい地域指導者をやってきて、そのうち15年くらいは一切お金をもらっていない。指導する側がお金が少ないからやらないという人はそうはないのではないか。自分がその競技が好きなので教えてあげたいという気持ちの方がずっと強いのではないかと思っている。お金は出ないがやってほしいというのもおかしな話だが、驚くほどの金額は必要ないのではないかと考えている。

【委員】

部活動を持続可能にするという観点で考えたときに、指導者への謝金はある程度きっと考えていいかないといけない。中学校の部活動が先生によって成り立っているというのはあまりお金のことに特化して考えていないからだったが、もう持続可能ではなくなってきている。地域移行をしてもそれぞれ活動の指導者がある程度替わりながら持続可能にしていくためには謝金は絶対に必要なこと。この協議会でしっかりと想い、国や県、市でもしっかりと考えていいかないとやはり持続可能にはならない。

【会長】

全くのボランティアではなく、多少でもお金をもらうと責任感が出るので、そのような意味でも無償でというのは難しい面もある。

【委員】由井委員より資料4-2について補足説明

県の人材登録については今日から登録開始となる。基本的には佐久市と同じような形で、公開される情報は居住エリア、性別、年代、指導可能種目やエリアとなる。それを提供したうえで合致する希望があれば指導者に問い合わせをして了解を得られれば自治体の方に指導者を紹介して、謝金額等条件を決めていただく形になる。

現在用紙の印刷発注をしている段階で、11月中には指導者登録、啓発チラシを学校、企業、大学、関係機関に配布する予定。実際に指導者の登録が済んで各自治体に紹介ができるのは1月からになる予定なので、市の人材バンクと併せて県のものも活用いただければと思う。

【教育長】

県はこの指導者募集についての目標人数はないのか。また、各学校や市町村教育委員会などに営業活動は行わないのか。協力要請などが来るのかについて確認したい。

【委員】

目標人数について聞いていない。営業についても検討中だとは思うが、今のところ特に聞いていない。

【教育長】

是非確認してほしい。佐久市では、アンケートより教員の2割は地域クラブでも指導してもよいとの結果から2割を計上する、といったアバウトな計算ではあるが200名を目標にしている。何名の登録があれば地域の助けになるということを考えていかないと、10人しかいませんではありえないと思うので、お願ひしたい。

もう一つ、一昨年から佐久市は人材バンクを頑張ろうとやってきて、県からは去年くらいから情報が色々上がってきたので、市はやらなくてもよいか、例えば東信のこの辺りには希望者がこれくらいいるのでそれなりの人数を集めます、登録者が何人いるので市町村では人材バンクのことはやらなくても県でやるので大丈夫だ、というのを期待していたが地区ごとの人数目標がないということはどうなるのか。私どもとしては、まずは足元から先生方にも働きかけ、市職員、各競技団体、企業に行って是非とお願ひをする。目標としている200名の半分100名でも登録できればありがたいと思っている。県ではこれで集まると思っているのが不思議で、自分の経験ではとても難しいことである。佐久市は佐久市でやり始めているので、県とも課題を共有してこうしていきましょう、とやっていくつもりである。市町村教育委員会連絡会の議題にお願いしてあるので、何でもいいのでご意見をいただき細かい行政単位でなく佐久地域でやっていかないといけないと思っているのでよろしくお願ひしたい。

4 その他【資料5】

資料5について事務局より説明

5 閉会